

2022年10月25日  
七十七リサーチ&  
コンサルティング(株)

## 宮城県における大学進学率の市町村間格差に関する要因分析について

七十七リサーチ&コンサルティング株式会社(社長 高橋 猛)では、自主研究として標記の研究を実施いたしました。この度、研究結果がまとまりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 目的

少子高齢化や人口減少が進む中、市町村単位の地域経済においても持続可能性を高めるためには、生産性の向上が不可欠となっています。そして地域の生産性を高めるためには、地域における大学進学率(以下、「進学率」という)を高めることにより、人的資本の蓄積を図ることが重要となっています。

一方、宮城県内市町村の進学率にはかなりの格差が存在しており、進学率が低い市町村の底上げを図ることが課題となっています。進学率格差を是正するためには、格差を生じさせている要因を明らかにする必要があります。そこで本研究では、県内市町村の進学率の向上に資する情報を得るため、進学率の市町村間格差の要因について考察しました。

#### (用語と留意点)

- ① 市町村別進学率は、市町村に所在する高校の大学進学者数を卒業生数で除したものです。ここでの進学率は、出身高校の所在市町村ベースのものであり、大学進学者(高校生)の居住市町村ベースのものではありません。
- ② 大学進学者は、大学(学部)のほか、短大(本科)、大学・短大(別科)、高校(専攻科)への進学者を含みます。
- ③ 進学率は、高校に設置されている学科(普通科、専門学科、総合学科)によりかなり異なります。
- ④ 対象となる市町村は、2020年3月末現在で高校が所在する30市町です。

## 2. 宮城県内市町村の進学率の概況

- 2020年における男女計の進学率をみると、富谷市が78.8%と最も高く、次いで多賀城市(66.9%)、仙台市(61.0%)、角田市(58.9%)、利府町(52.5%)などとなっています。最低は川崎町の5.0%であり、最高の富谷市とでは73.8ポイントの差異があります。  
男子進学率では、富谷市が88.6%と最も高く、次いで多賀城市(63.7%)、角田市(60.3%)、仙台市(59.5%)などと続いています。最低は川崎町の0.0%となっています。  
女子進学率では、富谷市が72.6%と最も高く、次いで多賀城市(70.1%)、白石市(69.2%)、仙台市(62.5%)などと続いています。最低は丸森町の5.7%となっています。
- このように県内市町村の進学率にはかなりの格差が存在しています。また、2010年から2020年にかけて市町村の進学率格差は拡大しています。

## 3. 分析方法と使用データ

- 本研究では、このような市町村の進学率格差の要因を把握するため、進学率とそれに影響を及ぼすと想定される経済指標との関連を計量分析(重回帰分析)により推定しました。重回帰分析とは、各市町村の複数の経済指標が進学率に与える影響度合いを分析する手法です。
- 進学率は2010年と2020年のものを使用しました。
- 進学率に影響を与える要因としては、①所得要因、②職業的要因、③学歴的要因、④教育環境要因などが想定されます。ここではこれらの要因を表す指標として、所得要因については(納税義務者1人当たり)課税対象所得、職業的要因は第1次産業就業者比率、学歴的要因は親世代大卒者比率、教育環境要因は学習塾従業者比率を使用しました。  
また、高校に設置されている学科の違い(普通科の有無)を表す指標を使用しました。

## 4. 分析結果

- 分析の結果、県内市町村の進学率は、課税対象所得、親世代大卒者比率、学習塾従業者比率が高いほど、高くなることが明らかとなりました。つまり、進学率格差には、所得要因、学歴的要因、教育環境要因が影響していることが示されました。
  - ① 所得水準は、私立大学が多く、高等教育の私費負担が大きい日本では進学率を左右する重要な要因となっており、所得が高い階層が多い地域ほど、進学率が高まると考えられます。なお、所得水準は学歴が高いほど、高まることが知られています。
  - ② 学歴的要因については、進学に有利な条件を持つ層が多く存在することで、そうではない階層の子弟も進学意欲が上がるという集積効果により、高学歴を有する人々が多い地域ほど、進学や学歴の必要性が認識され、地域全体の進学率が高まると考えられます。
  - ③ 教育環境要因についても、地域に大学進学を望むと想定される職業や学歴が高い親世代が多ければ、学習塾への需要が高まると考えられます。そして、学習塾の集積度が高いほど、進学率は高まると考えられます。

## 5. むすび

- 本研究の結果、宮城県内市町村の進学率格差には、所得要因、学歴的要因、教育環境要因が作用していることが明らかとなりました。

そしてこれらの規定要因には、全てに地域の教育水準の違いに起因する学歴の集積効果が働いていることが示唆されました。つまり、地域の教育格差が、世代間における学歴の再生産の連鎖を通して進学率格差を誘発していると考えられます。

- 進学率が低い市町村の底上げを図るためには、次のような施策が必要と考えられます。

### ① 短期的な取組みとしては、

- a. 現在、市町村で進められている移住支援や創業支援、企業誘致などの施策において、高学歴を有する高度人材が集積するような仕組みを導入し、人的資本の蓄積を促進することが必要となります。

つまり、人的資本が地域に蓄積するような仕組みを既存の地域政策にビルトインするのです。このような高度人材の集積を通じた人的資本の蓄積が進学率の引上げに結び付くと考えられます。

- b. また、進学率が低い専門学科・総合学科の進学率を高めるため、それらの高校生を主な対象とした大学修学資金貸付制度(償還免除条件付)の導入が効果的と考えられます。これは大学卒業後に地元企業に一定期間以上勤務した場合、貸付金の償還を免除する制度です。これにより専門学科・総合学科の進学率を上げるとともに、地元企業における高度人材の蓄積を促進することになります。

### ② 長期的な取組みとしては、

進学率が低い市町村における教育水準の引上げが求められます。これには長い年月を念頭に置いた的確で粘り強い取り組みが必要となります。そのためには対処療法的な施策ではなく、まずは自地域における教育格差の実態を客観的に捕捉し、ここで支援対象と判断される世帯・住民に対し個別的で効果的な施策を講じることが必要となります。

これが延いては自市町村の教育水準・大卒者比率を高め、自地域のみならず宮城県全体の進学率の底上げに繋がると考えられます。

以 上

<本件に関するお問い合わせ先>  
七十七リサーチ&コンサルティング(株)  
研究顧問 大川口 信一  
電話：022-748-7720

宮城県の市町村別進学率

	男女計		男子		女子			
	2010年	2020年	2010年	2020年	2010年	2020年		
1 富谷市	78.0	78.8	富谷市	80.7	88.6	富谷市	76.1	72.6
2 多賀城市	50.8	66.9	多賀城市	51.7	63.7	多賀城市	50.0	70.1
3 仙台市	59.5	61.0	角田市	71.2	60.3	白石市	64.5	69.2
4 角田市	66.7	58.9	仙台市	59.4	59.5	仙台市	59.7	62.5
5 利府町	61.8	52.5	利府町	72.0	58.3	角田市	61.4	57.5
6 白石市	51.3	50.7	塩竈市	38.5	51.7	大崎市	44.1	46.7
7 大崎市	42.1	43.3	岩沼市	40.0	48.0	利府町	53.9	45.4
8 東松島市	46.2	43.3	東松島市	52.2	47.2	気仙沼市	34.7	42.4
9 塩竈市	34.0	42.1	柴田町	43.8	42.1	東松島市	41.5	40.4
10 名取市	34.6	40.3	名取市	30.8	41.0	名取市	38.7	39.7
11 気仙沼市	30.9	39.1	大崎市	40.4	40.4	登米市	41.9	37.8
12 柴田町	38.4	38.5	白石市	42.7	39.0	石巻市	36.7	37.5
13 石巻市	35.1	35.9	南三陸町	20.8	36.8	塩竈市	28.8	36.4
14 岩沼市	27.1	35.1	気仙沼市	26.9	36.5	栗原市	36.9	35.9
15 登米市	32.6	34.3	石巻市	33.5	34.3	柴田町	32.1	35.0
16 栗原市	38.0	32.7	登米市	24.8	31.1	美里町	27.7	29.7
17 南三陸町	23.2	30.8	栗原市	38.9	29.4	岩沼市	22.0	27.9
18 七ヶ宿町	22.6	24.2	七ヶ宿町	25.0	29.2	加美町	30.2	25.0
19 美里町	25.2	20.7	蔵王町	16.7	21.1	南三陸町	24.7	22.2
20 加美町	26.5	19.8	松島町	26.7	18.3	涌谷町	30.1	16.4
21 蔵王町	16.7	17.9	涌谷町	23.4	14.7	大和町	22.5	15.8
22 松島町	18.5	16.8	加美町	21.7	13.0	村田町	10.2	15.6
23 涌谷町	27.4	15.5	大和町	15.2	11.2	松島町	14.4	15.5
24 大和町	18.2	12.8	美里町	23.4	10.5	蔵王町	16.7	15.0
25 村田町	7.1	11.8	大河原町	17.0	9.6	色麻町	16.7	13.0
26 亶理町	14.5	9.8	村田町	3.7	8.8	亶理町	13.0	12.2
27 大河原町	12.5	9.1	亶理町	16.3	7.1	七ヶ宿町	20.0	11.1
28 色麻町	9.1	8.2	色麻町	4.3	6.0	川崎町	0.0	10.0
29 丸森町	2.7	5.3	丸森町	1.5	5.0	大河原町	8.5	8.6
30 川崎町	6.5	5.0	川崎町	9.7	0.0	丸森町	3.7	5.7

注) 市町村は2020年進学率が高い順に配列。